

優良経営体事例

株式会社 竹内農場

調査日	令和元年5月
所在地	香川県丸亀市綾歌町
URL	https://takeuchi-farm.jp/
経営主	竹内 章雄
主要事業	露地野菜部門
主要作目	キャベツ 24ha 肥育牛 35頭 アスパラガス 12a 小松菜 10a(ハウス面積) 水稲 70a
就農タイプ	継承
法人化	平成28年(就農後43年目)
売上	1億1,000万円
従業員	常勤11名(内役員4名) 臨時雇用5名、実習生1名

ヒストリーあらすじ

・農業短期大学卒業後、1haの農地で水稲と葉タバコ、肥育牛の専業農家の後継者として就農した。

・昭和60年の日本専売公社解散前から葉タバコ主体の経営に危機感を持ち、キャベツ主体に切り替えた。

・機械化による省力化、常時雇用の導入、作付体系の検討によりキャベツの規模拡大。安心・安全な美味しいキャベツづくりを行っている。

・後継者からの前職の経験を踏まえた意見を取り入れ、人材育成に取り組んでいる。働きがいのある会社づくりを目指し、年次有給休暇取得率100%、年間労働時間2,000時間、離職者ゼロ。

・経営理念、経営指針を従業員とともに作成。「天地自然に感謝し、農業の力で物心共に豊かな未来を創ります」を経営理念に、長期ビジョン、中・短期経営計画を立て、従業員と想いを共有している。

・農業に関心を持ってもらいたい、農業に係わる人を増やしたい思いで、研修生の受け入れや地域の子供たちへの食育活動に力を入れている。

・誰もが働きやすい職場づくりが評価され、令和元年度全国優良経営体表彰働き方改革部門で経営局長賞受賞

エッセンス	
●人材教育・育成	・従業員一人一人の事情を考慮し、経営者と従業員両者が納得できるよう労働条件を調整 ・独立を目指す従業員には、独立を見据えた知識習得支援
●うまいキャベツ	・長期間出荷することで有利販売 ・自家堆肥、緑肥等で土づくり。農薬に頼らない栽培管理 ・リスク分散のため、アスパラガスや小松菜を導入
●地域とともに	・地域の小学生、中学生に対する食育活動 ・農大、企業等からの積極的な研修受入 ・地域農業者への作業支援



経営指針書は皆で共有



竹内代表、専務とスタッフ一同



新規作物:小松菜導入



竹内農場「ロゴ」と「うまいキャベツ」オリジナル出荷箱

株式会社竹内農場 ヒストリー

就農前	就農期 (昭和50年～昭和54年)	転換期 (昭和55年～平成25年)	確立期 (平成26年～平成30年)	発展・将来構想 (令和元年～)
<p>●章雄氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親が水稲、葉タバコ、肥育牛の専業経営 ・就農するため農業短期大学で畜産について学ぶ。 <p>就職しなかったが、両親との話し合いの結果、やむを得ず就農</p>	<p>●S50(1975年)農業短期大学卒業と同時に就農</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農し、肥育牛の増頭に力を入れる。 <p>労働力は夫婦と両親のみ。葉タバコの買入価格も高く、経営的に有利だった。</p>	<p>●S55(1980年)キャベツ作付(80a)開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和63年には4.5ha、平成10年には9.2ha、平成18年には15haに拡大。 <p>定植機や乗用防除機、大型トラクター等を導入し、作業を省力化。常時雇用の導入により、さらに規模拡大。</p>	<p>●H26(2014年)後継者が就農</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前職の人事コンサルタントの経験を生かし、働きがいのある会社を目指し、様々な取組を進めている。よいと思ったことは積極的に取り入れている。 <p>年次有給休暇消化100%を実現。年間労働時間2,000時間。MVP制度、目標管理、行動評価、先進地視察など。面談で従業員1人1人の現状を把握し、きめ細かく対応している。</p>	<p>●人材教育・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立希望者を積極的に採用し、若手の農業の人材を育てる。 ・企業や学校の研修や体験も受け入れ、農業の現状や楽しさを理解してもらいたい。 <p>農業に係わることで、農業のことを意識する人が増え、食への興味を持ってほしい。竹内農場としての規模は30haまでと考えており、農業を始める人の勉強の場としての位置づけを持たせたい。</p>
<p>●後継者 一之氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年間人事コンサルタント会社に就職。 ・農業を最初からやりたかったわけではなく、義務感からいざれ継がなければならないと思っていた。 <p>様々な会社と関わることで、よい会社とは何かしっかりと見極める大切な時間となる。「人のいいところを見つけて生かす。」ことも興味深かった。農業を始めたころは楽しくなかったが、後継者クラブのメンバーが楽しそうに仕事をしているのを見て、刺激を受けた。</p>	<p>●担い手組織で情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農と同時に、旧綾歌町農業経営者協議会畜産部会の会員として、また、地元JAの肉牛部会に加入した。 <p>仲間同士で幅広い情報交換や各種研修会を行うとともに、活動促進を図った。</p>	<p>●S63(1988年)葉タバコ栽培中止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャベツ中心としたことで、規模拡大が可能となる。 ・キャベツ規模拡大に伴い、肥育牛の規模を縮小(オリーブ牛導入)。 <p>キャベツの品種は現在37品種。これらを組み合わせることで10月から7月まで長期出荷を可能にした。「うまいキャベツ」ブランドを確立。</p>	<p>●H28年(2016年)8月株式会社竹内農場設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営理念、行動理念を定めた。 ・経営指針書を作成し、役員、従業員と想いを共有。 <p>利益を出すことに執着していたらしんどくなった。目指すところは何か、従業員とともに異業種の助言も得ながら経営理念、経営指針を作成した。</p>	<p>●販売ネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立した従業員や、思いを同じくした仲間たちと販売ネットワークを構築したい。 <p>売り先のことを心配しないでよい環境をつくりたい。輸出も視野に。</p>
		<p>●地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農大、企業等からの研修受入、中学生の職業紹介・職場体験受入、学校給食、周辺農家への作業支援など。 <p>自分たちのこと、農業のことを認識してもらいたい、農業に係わる人を増やしたい、従業員に誇りを持ってもらいたい思い。農業の勉強をしてもらうことを目的に、外国人実習生は30年前から1人ずつ受入している。</p>	<p>●新規品目導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスを借り受け、アスパラガスや小松菜の作付を開始 <p>経営のリスクヘッジ、天候不良時の業務の確保が目的。独立就農を目指す従業員に、様々な経験(栽培・管理)をさせたいとの思いもあり、専任担当を決め、管理を任せている。</p>	<p>●農業者と消費者をつなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験や収穫祭などのイベントを企画して、消費者に生産現場の現状を知ってもらえるような環境づくりをしたい。 <p>PCやECサイト等を通じて、最終消費者と常につながりを持つ環境をつくり、積極的に発信したい。</p>

株式会社竹内農場 <課題と対応策>

フェーズ		就農期 昭和50年～59年	転換期 昭和60年～平成25年	確立期 平成26年～平成31年	発展・将来展望
主な出来事		・両親は葉タバコ経営 ・親元就農し、肥育牛増頭	・キャベツを主体とした経営に転換	・後継者のUターン就農 ・法人化	
経営課題	ヒト・組織	父、母、本人の家族労働	常時雇用、外国人研修生受入	常時雇用の増員	働きがいのある会社づくり
	土地・設備	自作地中心	借地による規模拡大	ビニールハウスを貸借で取得	規模拡大は30haまで
	カネ			ビニールハウス改修や設備投資	
	技術・ノウハウ	肥育牛飼養技術の習得	葉タバコの裏作として元々白菜など露地野菜を栽培	10月から7月まで長期出荷	キャベツ以外の品目の導入
	販売・販路		「うまいキャベツ」ブランドで出荷	販路拡大	独立した従業員等と共同出荷
	情報	地域の農業者	地域の農業者	他業種との交流	
	地域		担い手の育成、食育活動	担い手の育成、食育活動	従業員の独立支援
	具体的内容	・肥育牛の規模拡大 ・葉タバコの市場先行き不安から、替わる品目を検討	・担い手育成の観点から、県内外の就農希望者(研修生)の受け入れ ・自家堆肥、緑肥による土づくり	・経営理念・指針書を作成。従業員と意思を共有	・新たな販売先の開拓 ・生産者と消費者の交流 ・人材教育・育成
対応策		・就農と同時に、旧綾歌町農業経営者協議会・畜産部会員となる。	・葉タバコに替えてキャベツを導入。 ・経営安定のため、キャベツの周年出荷体系の確立、規模拡大	・作業の平準化や独立希望者の経験を目的に、新規作物(アスパラガス、小松菜)導入	・独立希望者が勉強できる環境づくり、独立後もしっかりと支援できる環境づくり
外部環境			・日本専売公社解散		